

姫路偕行会について

姫路偕行会会長

福永 正之 陸自81

1 はじめに

令和3年に中木村さん（陸自63）から姫路偕行会会長を引き継ぎました福永です。貴重な紙面を頂きまして、姫路偕行会の現況などを報告いたします。本年1月、全国会長会同に参加させていただきましたが、全国最年少の会長とのことです。

会員の皆さまは既にご承知のように、中央では、偕行社と陸修会の合同が来年4月を目標に進んでいきます。今後は合同後の偕行社と各地偕行会との関係が議論されていくと思

います。そこで偕行社の会員の皆さまに偕行会の現況を、より理解していただきたく、偕行会では若輩者ではありませんが投稿をいたしました。

ご承知のように偕行会の多くは県名を冠しておりますが、兵庫県は姫路偕行会と大阪府と併せた近畿偕行会が所在しております。その歴史的背景にも少し触れた後、現在の取り組みについて紹介させていただきます

す。

2 軍都姫路

姫路は、古くは播磨国の国府所在地で現在も兵庫県南西部の中心地です。明治の初めに大阪鎮台の一部後の歩兵第10聯隊）が配置され、明治31年には第10師団が姫路で編成されて軍都と呼ばれるようになりまし

た。第10師団が管轄した地域、第10師管（姫路師管）は、時期により異なりますが、昭和20年4月の廃止前は兵庫、岡山及び鳥取の3県でした。当該師管で終戦までに、第10師団に続き第17師団、第54師団、第110師団、第355師団が編成されています。また姫路護国神社には播磨と但馬出身の5万6988柱の英霊が祀られています。

ね、姫路駐屯地と姫路市は姫路城クリーン作戦やお城まつり支援、また自衛官の募集業務などを通じて良好な関係にあります。

近年は特科部隊の改編、規模縮小が進んでおり、危機感を感じた市長が陣頭に立ち、兵庫県や近隣市町を巻き込んで姫路駐屯地の勢力維持要望を防衛省や自衛隊に精力的に行って来ましたが、余談ではありますが、私は5年前から姫路市の非常勤嘱託職員として危機管理防災業務の傍ら、微力ながら姫路駐屯地と姫路市の橋渡しをさせていただいております。

3 姫路偕行会の現況

姫路偕行会の会員は、名簿上32名です。そのうち会費を払っていただいている会員は、25名です。また偕行社会員を兼ねた会員は、今年は半減して約10名です。

主な活動は、これまで姫路駐屯地と青野原駐屯地の記念行事や入隊式等の行事、殉職隊員追悼式への参加、護国神社や陸軍墓地での慰霊祭等への参加でした。これらの行事は隊友会や郷友会などが主体となつて支援・計画し、偕行会の会員の多くは同団体の会員でもあるため、本会と

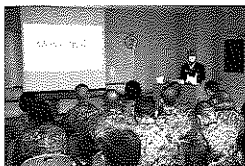
しては存在感のない行事になっていきます。

姫路偕行会の唯一主催行事は、田中静彦大将の顕彰碑（龍野公園）の地元老人会との共同による清掃・慰霊でした。そこで会員の参画意識ややりがいが高めるため、ひいては会勢拡大のため、令和3年度から各駐屯地修親会との交流・支援を偕行会事業の新しい柱としました。

令和3年度は各駐屯地司令を会員有志で訪問して偕行社・偕行会のPRと修親会行事への参加・支援を依頼しました。そして令和4年12月、姫路駐屯地で小松駐屯地司令同席の下、修親会会員約50名に対し「伝統の継承」と題して偕行社・偕行会のPRも兼ねて郷土史の講話をしました。その際、今後に繋げるために修親会役員に対するアンケートを実施したところ、講演参加者全員が回答をしてくれました。ほぼ全員が肯定的な意見で、①講話の継続実施、②史跡研修、③戦史教育や精神教育などの支援を望む声が多く寄せられ、手応えを感じました。そして、早速本年2月初旬に第3特科隊隊付教育の「郷土史」を支援することになりました。

当日は隊付2名の幹部候補生に加えて、陸曹候補生や修親会の有志など、約30名に対して、前段は講話、後段は史料館研修を実施しました(写真)。後段は三枝副会長や曾田事務局長にも加勢してもらい、初めて史料館の説明を実施しました。あらためて姫路駐屯地の史料館の充実ぶりを実感したと思います。

幹部候補生が主な対象であったので、講話は陸曹候補生には眠気を誘う内容になったのではと反省しています。一方で幹部候補生から寄せられた的確な質問や担当教官中嶋2尉などからの感謝の言葉が大変うれしく思えました。



郷土史の講話



史料館研修

4 姫路偕行会の今後

隊友会や郷友会、或いは護国神社崇敬奉賛会との差別化を図るには、偕行社の事業の①安全保障問題等の調査・研究・提言及び普及、②陸上自衛隊に対する必要な協力、のうち①の安全保障問題等(近現代史を含む)の調査研究については郷土史まで拡大し、現職自衛官には時間的余裕がないなどの理由で不十分となりがちな郷土史や郷土部隊の戦史などを調査研究すること。②については講話や現地研修などを通じて現職隊員を支援することに偕行会の存在意義や活路を見出したいと考えています。

今後は姫路駐屯地史料館を調査研究の活動拠点として利用させていただくとともに、今回姫路駐屯地で得た教訓や成果を青野原駐屯地にも普及していきたいと思っています。またこれら活動を通じて、現職隊員からの新たな要望があれば可能な範囲で協力支援していきたいと考えています。

偕行社の皆さまのご助言や各地偕行会の皆様のご意見が得られればと思っております。引き続き、姫路偕行会をよろしく願います。